

症例検討会

岐大前店

平成 25 年 4 月

立山クリニックに通院している患者様が入院し手術をされました。その病名が「黄色靭帯骨化症」という特定疾患でした。あまり聞きなれない病名でしたので今回の症例検討とさせていただきます。

基本情報

70代 女性

立山クリニックには高血圧、高脂血症、不眠症で通院中。

平成 24 年には大学病院へ受診し、長年悩まされていた頭痛が改善。

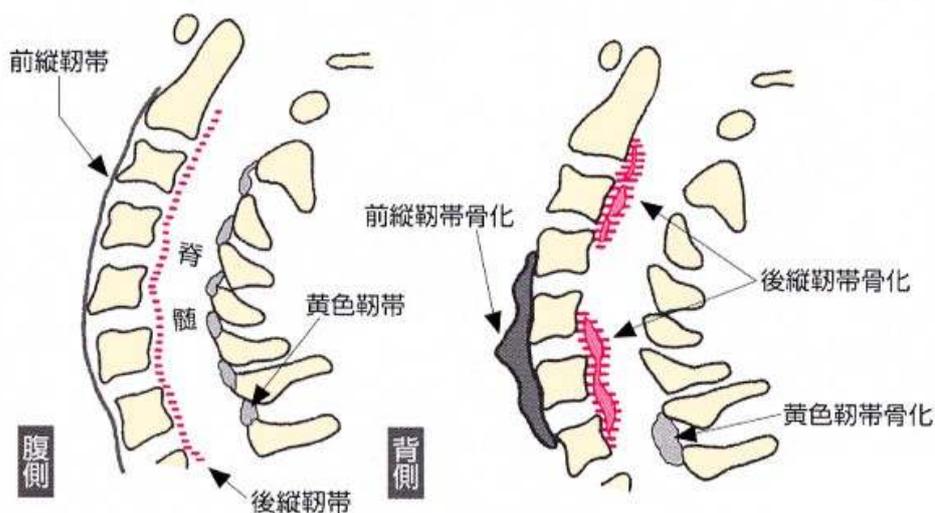
顔面神経痛にて松波総合病院へも通院中。

下記疾患については平野総合病院にて治療中。

当薬局では立山クリニックでの処方しか扱っていないため併用薬が不明。

病因

黄色靭帯骨化症とは脊柱管の後方にある椎弓の間を結ぶ靭帯、すなわち黄色靭帯が骨化し、脊柱管が狭くなり、神経の圧迫症状が出現してくる病気。原因は不明。



症状

初発症状として下肢の脱力やこわばり、しびれまた腰背部痛や下肢痛が出現してきます。痛みがない場合もある。数百メートル歩くと少し休むといった間欠跛行を来すこともある。重症になると歩行困難となり、日常生活に障害を来す状態になる。

診断

画像所見に加え、自覚症状ならびに身体所見が認められ、それが靭帯骨化と因果関係があるとされる場合、本症と診断する。

(自覚症状ならびに身体所見)

- ① 四肢・躯幹のしびれ、痛み、感覚障害
- ② 四肢・躯幹の運動障害
- ③ 膀胱直腸障害
- ④ 脊柱の可動域制限
- ⑤ 四肢の腱反射異常
- ⑥ 四肢の病的反射

(画像所見)

- ① 単純X線
- ② C T…脊柱管内に黄色靭帯の骨化がみられる
- ③ M R I…人体骨化巣による脊髄圧迫がみられる

治療法

神経が圧迫されて症状が出現した場合に治療の対象になる。安静臥床や消炎鎮痛剤の内服を行う。痛みが強い場合は硬膜外ブロックを行うこともある。種々の治療法を組み合わせ経過を見るが、神経症状の強い場合は手術を行う。この場合、骨化巣を切除して神経の圧迫を取り除く。